

風立ちぬ

風の街の中学校の窓から

庄内町立立川中学校
学校だより
2016. 3. 22

文責：校長 石崎幸宏

新たな人生への船出 (その1)

3月15日、50名のご来賓の皆様と大勢の保護者の皆様にご臨席いただき、厳粛な中にも感謝に満ちた感動的な「卒業証書授与式」を行うことができました。

今年度の立川中学校を牽引し、新たな歴史を刻んでくれた48名の卒業生の皆さんに感謝すると共に、未来を切り拓く卒業生の限りない前途を祈念いたします。

卒業生へのメッセージ

(卒業証書授与式「校長式辞」から抜粋)

ここで、卒業生の皆さんに、2つの言葉を贈ります。

1つは、「**失敗を恐れず挑戦し続ける**」という言葉です。本校の校訓「**為せば成る**」や**自立すること**にも通じるものです。

「**試行錯誤**」という言葉がありますが、「**試行錯誤を重ねる**」とは、何か新しい物事をする際に、試みと失敗を

繰り返しながら次第に見通しを立て、解決策を見出ししていくことを表す言葉です。

将来を担う皆さんに最も求められる力の1つが、**失敗することを恐れず挑戦し、一度や二度の失敗でくじけるのではなく、何度失敗しても、失敗の原因を振り返り、その都度自分自身を奮い立たせ、何とか解決にたどり着こうとする気力**だと思います。

「そんなことは無理」「やっても結果が見えている」と言って、最初から挑戦を放棄する人間にはならないでください。夢や目標に向かって挑戦し続けてください。失敗し、悲嘆にくれ、思い悩んでこそ人は成長していくのです。困難に直面し、踏み出すことに躊躇(ちゅうちよ)する場面もあろうかと思えます。その時この言葉を思い出してください。

2つめは、これまでも生き方で大事にしてきた「**共生社会の中で貢献する**」ということです。

学校は「**社会の縮図**」と言われるます。卒業生の皆さんは、「**社会の縮図**」である本校で、心が行き交う日常的なあいさつ、役割と責任を果

たし団結を強めた二大行事、資源回収やボランティア活動、地域や南三陸町等の学校外との交流等、誰もが、どの活動でも「**つながり**」や「**共に支え合うこと**」、「**協力し合うこと**」を意識しながら、互いに必要とされ、信頼関係をつくり、心の通う意義ある活動、貢献する活動を行ってきました。

そして、そのことは、**凍とした中にも、誰もが居場所のある居心地のよい温かな学校**をつくり出し、今の立川中学校のよさとなっています。このような活動をし、学校を築いてきた卒業生の皆さんだからこそ、「**共生社会の中で貢献する**」とはどんなことか改めてみつめてほしいのです。

グローバル化の進展する中、共生とは「文化、習慣、言語、民族などの違いを問わず、すべての人類が末長く共に生き、共に働き、幸せに暮らしていける社会」と言われています。

次代を生きる卒業生の皆さんは、**これまで行ってきたことをもっと広くもっと大きく、社会を構成する良き「シチズン・住民」として、貢献することの視点をもち、意識し、様々なニーズや課題に応えることのできる人、一層貢献できる人になってほしい**と思います。

就いた職業の社会に果たす役割を通して役立つ、町や地域社会のために役立つ、社会福祉、青少年の教育・育成、医療、人道・災害、環境保全、復興支援等の様々な分野、PTA活動、ボランティア活動など、役立つこと、貢献することは多岐にわたります。

人間らしさのある、温かくてぬくもりのある、「心」が通い合う、よりよい社会を築くために貢献することを是非大事にしてほしいと思います。

『3.11 忘れない 希望の灯 2016』

東日本大震災から5年を迎えた3月11日、本校の生徒会では、「絆」、「結」と大きく書かれた2枚の旗に、「いつまでも応援します」、「また楽しく交流してください」、「いつまでも忘れません」等の生徒一人一人の思いを込めたメッセージを寄せ書きしました。この寄せ書きは、南三陸町の歌津の漁協に送ることにしています。

また、この日の夕方には、町役場立川庁舎1階ロビーで、1、2年生の有志による慰霊合唱が行われました。日頃から南三陸町と様々な交流を行っている本校では、歌うことで支援の輪を広げようと昨年からの生徒会の活動として行っています。今年は『3.11 忘れない 希望の灯 2016』の看板と寄せ書きした2枚の旗を掲げ、「最上川舟唄」と「ふるさと」の2曲を南三陸町への思いを込めて合唱しました。

本校では、これからも友好町南三陸町との交流を通して、少しでも復興の応援ができればと考えています。

